

練習を始める前に

全10問 | 小さな練習から、まとまった作文へ

名前 _____

日付 _____

添削は、間違い探しではありません。目的に合う伝わり方を一緒に考える作業です。チェック欄の「自分」は書き手、「読み手」は友達など、文章を読む人が記入します。○は満たしている、△は一部できている、×は直す必要がある、という印です。気になる箇所に線を引き、理由をメモしましょう。一人で取り組む場合は、時間を置いて読み手の立場でも点検できます。

問1～4 基礎／問5～7 標準／問8～10 応用。自分で書いてから、解答解説の例と確認基準を読みましょう。作文の内容は一つに決まりません。

この教材の「字数」は、横書き原稿欄の使用マス数で数えます。本文だけの文字数とは異なります。題名・氏名は原稿欄の外に書きます。

1行20マス。段落の最初は1マス空けます。改行は次の行へ進み、前の行の余ったマスも数えます。最終段落の末尾より後の空きマスは数えません。

句読点・かぎ括弧は原則1マスです。ただし「。」と直後の閉じかぎ括弧は同じマスに書きます。句読点や閉じ括弧が行頭に来的时候は、前の行の最後のマスに前の文字と一緒に入れます。

開き括弧が行末に来るときは、そのマスを空けて次の行から書きます。その空きマスも数えます。数字は原則として漢数字を使います。

以上はこの教材でそろえた練習用のルールです。学校・入試の原稿用紙や字数計算に別の指示がある場合は、その指示を優先します。

取り組み終わったら、できた問に印を付けましょう。

問1〔〕 問2〔〕 問3〔〕 問4〔〕 問5〔〕

問6〔〕 問7〔〕 問8〔〕 問9〔〕 問10〔〕

基礎の練習

問1～7は、作文につながる部分練習

名前

日付

問1 条件をチェック項目にする

課題の条件を、書き手と読み手が使える三つのチェック項目に直しなさい。項目ごとに、どこを見るかも短く書きなさい。

考える材料

課題：図書室の開室時間について、立場・理由・具体例を入れ、二段落、使用マス数百六十～二百マスで書く。

条件

- 1 三項目にまとめる。
- 2 各項目に確認する場所や方法を添える。

確認 条件を満たし、読み手に伝わる表現になっているか。

基礎の練習

問1～7は、作文につながる部分練習

問2 資料の範囲を守って直す

下書きのどの言い方が資料の範囲を超えているか指摘し、資料から確実に言える一文に直しなさい。

考える材料

資料：三年一組三十人に希望の曜日を一つ聞き、十八人が水曜日を選んだ（架空調査）。

下書き：全校の生徒はみんな、水曜日に図書室を開いてほしいと思っている。

条件

1 問題のある表現を取り上げる。

2 対象と人数を正しく入れた一文に直す。

書き手と読み手のチェック

○ できた／△ 一部できた／× 要修正。読み手がないときは、時間を置いて自分で確認します。

自分 ☐ 読み手 ☐ 事実と想定例を分けている

資料にない数値や経験を事実にしていないか確かめる。

確認 条件を満たし、読み手に伝わる表現になっているか。

基礎の練習

問1～7は、作文につながる部分練習

問3 つながりの切れた箇所を直す

下書きは、反対する理由と結論がつながっていません。主張を「端末だけにする案には反対」のまま保ち、最後の文を書き直しなさい。

考える材料

私は、連絡を端末だけにする案には反対だ。家で通信できない生徒もいるからだ。だから、紙の配布をすべてやめるべきだ。

条件

- 1 最初の二文は変えない。
- 2 最後の一文を、理由に対応する結論に直す。

書き手と読み手のチェック

○ できた／△ 一部できた／× 要修正。読み手がないときは、時間を置いて自分で確認します。

自分 ☐ 読み手 ☐ 理由が主張を支えている

「なぜそう言えるか」に本文が答えているか読む。

自分 ☐ 読み手 ☐ 文どうし・段落どうしがつながる

指示語、接続語、主語と述語、結論のねじれを点検する。

確認 条件を満たし、読み手に伝わる表現になっているか。

基礎の練習

問1～7は、作文につながる部分練習

問4 重複と文体を整える

下書きを二文にまとめ、常体にそろえなさい。主張と理由は残し、重なった表現を減らします。

考える材料

私は掲示物の文字を大きくすべきだと思います。小さい文字は離れた場所から読みにくいからだ。だから文字は大きい方がよいと思います。

条件

- 1 二文にする。
- 2 常体に統一する。
- 3 主張と、離れた場所からの読みやすさという理由を残す。

書き手と読み手のチェック

○ できた／△ 一部できた／× 要修正。読み手がないときは、時間を置いて自分で確認します。

自分 ☐ 読み手 ☐ 表記と文体がそろっている

漢字・送り仮名・句読点・常体か敬体かを見直す。

確認 条件を満たし、読み手に伝わる表現になっているか。

標準の練習

問1～7は、作文につながる部分練習

名前

日付

問5 役立つ友達コメントを書く

下書きへのコメントを、①よい点、②確かめたい点、③書き手に選んでもらう改善案の順に書きなさい。

考える材料

私は図書室に相談席を作りたい。友達と疑問を確かめ合えるからだ。相談席があれば、全員が集中できる。

条件

- ①②③に分ける。
- 本文中の具体的な表現に触れる。
- 命令や人格の評価ではなく、質問・提案として書く。

書き手と読み手のチェック

○ できた／△ 一部できた／× 要修正。読み手がないときは、時間を置いて自分で確認します。

自分 ☐ 読み手 ☐ よい点と質問を具体的に書いた

「上手」「変」だけで終わらず、本文の箇所を示す。

自分 ☐ 読み手 ☐ 書き手が選べる提案になっている

自分と違う意見だからという理由で変更を求めない。

確認 条件を満たし、読み手に伝わる表現になっているか。

標準の練習

問1～7は、作文につながる部分練習

問6 助言を選ぶ理由を伝える

二つの助言のうち採用するものを選び、採用しないものも含めて理由を書きなさい。必要なら別の直し方を提案しても構いません。

考える材料

下書き：連絡には紙も残すべきだ。端末が使えない場合があるからだ。

助言A：「みんなが困っている」と書くと強い。

助言B：「例えば、充電切れの日にも持ち物を確かめられる」と加えると具体的だ。

補足：困っている人の人数を調べた資料はない。

条件

1 AとBの両方について判断する。

2 判断の理由をそれぞれ示す。

確認 条件を満たし、読み手に伝わる表現になっているか。

標準の練習

問1～7は、作文につながる部分練習

問7 直す順番とコメントを決める

三つの問題を直す順番を考え、最初に直す問題について、書き手への短い助言を書きなさい。

考える材料

- A：一か所、読点が抜けている。
- B：一学級の調査を、全校の結果と書いている。
- C：反対意見を書いた後、その心配への応答がない。

条件

- 1 直す順番と、その順番にする理由を示す。
- 2 最初の問題について、箇所と理由の分かる助言を書く。

確認 条件を満たし、読み手に伝わる表現になっているか。

問8 チェックして根拠を直す

応用 | 使用マス数 160～200マス

名前 _____ 日付 _____

資料と下書きを読み、先に11ページのチェック欄で問題を見つけなさい。その上で、水曜日の開室を提案する立場を保ち、条件に沿って全文を書き直しなさい。

考える材料

資料：三年一組三十人に一人一回答で希望を聞き、十八人が水曜日を選んだ。ほかの学級には聞いていない（架空調査）。

下書き：全校のみんなが水曜日の開室を望んでいる。だから来週から必ず水曜日に開けばよい。反対する人は、本を読む気がないのだ。

条件

- 1 使用マス数は百六十～二百マス。二段落・常体で書く。
- 2 調査の対象と人数を正しく入れる。
- 3 相手への決め付けを除き、追加確認や試行の方法を書く。
- 4 水曜日の開室を提案する立場を保ち、断定は試行の提案に改める。メモに直した点を二つ書く。

構成メモ

直す点二つと理由

残す立場と正しい根拠

次の確認・試行

問8 チェックして根拠を直す 本文

使用マス数 160～200マス | 横書き 1マス9mm

本文を書く欄

																				20
																				40
																				60
																				80
																				100
																				120
																				140
																				160
																				180
																				200

数え方 段落頭・途中の改行で残る空きも数え、最後の文の後の空きは数えません。

確認 条件・根拠・段落を点検し、使用マス数を確かめたか。

問8 チェックして根拠を直す 見直し

問い・根拠・構成・表現を点検

書き手と読み手のチェック

○ できた／△ 一部できた／× 要修正。読み手がないときは、時間を置いて自分で確認します。

自分 ☐ 読み手 ☐ **問いと条件に答えている**

話題・立場・指定語句・段落数・マス数を問題文と照らす。

自分 ☐ 読み手 ☐ **理由が主張を支えている**

「なぜそう言えるか」に本文が答えているか読む。

自分 ☐ 読み手 ☐ **事実と想定例を分けている**

資料にない数値や経験を事実にしていないか確かめる。

自分 ☐ 読み手 ☐ **別の立場に敬意がある**

決め付けを避け、心配に理由や対策で応じる。

自分 ☐ 読み手 ☐ **文どうし・段落どうしがつながる**

指示語、接続語、主語と述語、結論のねじれを点検する。

自分 ☐ 読み手 ☐ **表記と文体がそろっている**

漢字・送り仮名・句読点・常体か敬体かを見直す。

読み手の助言（よい点と、根拠が分かりにくい点）

書き手が直すこと（採用する助言と、その理由）

読み返して直したいところ

直した理由

問9 助言を生かして全文を直す

応用 | 使用マス数 160～200マス

名前 _____ 日付 _____

下書きと友達の助言を読み、相談席を設ける案に賛成する立場のまま書き直しなさい。すべての助言を機械的に入れず、必要な内容を選びます。

考える材料

下書き：私は相談席に賛成です。便利だからだ。静かにしたい人もいます。でも便利なので作るべきだ。

友達の助言：①何が便利か、場面を書くと言われる。②静かに読みたい人への対応が欲しい。③「全員が喜ぶ」と書こう。

補足：利用者の意見調査は行っていない。

条件

- 1 使用マス数は百六十～二百マス。二段落・常体で書く。
- 2 第一段落に具体的な想定例、第二段落に心配への対応を書く。
- 3 全員の意見を調べたような断定をしない。
- 4 メモに、採用しない助言と理由を一つ書く。

構成メモ

採用しない助言と理由

賛成の理由・想定例

心配への対応

問9 助言を生かして全文を直す 本文

使用マス数 160～200マス | 横書き 1マス9mm

本文を書く欄

																				20
																				40
																				60
																				80
																				100
																				120
																				140
																				160
																				180
																				200

数え方 段落頭・途中の改行で残る空きも数え、最後の文の後の空きは数えません。

確認 条件・根拠・段落を点検し、使用マス数を確かめたか。

問9 助言を生かして全文を直す 見直し

問い・根拠・構成・表現を点検

書き手と読み手のチェック

○ できた／△ 一部できた／× 要修正。読み手がないときは、時間を置いて自分で確認します。

自分 ☐ 読み手 ☐ **問いと条件に答えている**

話題・立場・指定語句・段落数・マス数を問題文と照らす。

自分 ☐ 読み手 ☐ **理由が主張を支えている**

「なぜそう言えるか」に本文が答えているか読む。

自分 ☐ 読み手 ☐ **事実と想定例を分けている**

資料にない数値や経験を事実にしていないか確かめる。

自分 ☐ 読み手 ☐ **別の立場に敬意がある**

決め付けを避け、心配に理由や対策で応じる。

自分 ☐ 読み手 ☐ **文どうし・段落どうしがつながる**

指示語、接続語、主語と述語、結論のねじれを点検する。

自分 ☐ 読み手 ☐ **表記と文体がそろっている**

漢字・送り仮名・句読点・常体か敬体かを見直す。

読み手の助言（よい点と、根拠が分かりにくい点）

書き手が直すこと（採用する助言と、その理由）

読み返して直したいところ

直した理由

問10 自分と友達で仕上げる

応用 | 使用マス数 160～200マス

名前

日付

学級で使う連絡方法について、端末と紙をどう使うか提案しなさい。書いたら自分でチェックし、友達にも読んでもらって、最後に全文を見直しなさい。

考える材料

設定：全員が学校の端末を持つが、家で通信できない生徒もいる。現在は紙で配布している。学級会で、全員が必要な連絡を受け取れる方法を考える。

コメント欄に書くこと：自分「直した点と理由」、友達「よかった点」「確かめたい点」。友達がいない場合は、読み手の立場でもう一度確認する。

条件

- 1 使用マス数は百六十～二百マス。二段落・常体で書く。
- 2 提案、理由、別の立場の心配とその対応を入れる。
- 3 17ページのチェック欄を使う。コメントはメモ欄に書き、本文のマス数に含めない。
- 4 実体験は不要。想定した場面は事実と区別して書く。

構成メモ

自分：直した点と理由

友達：よかった点

友達：確かめたい点

問10 自分と友達で仕上げる 本文

使用マス数 160～200マス | 横書き 1マス9mm

本文を書く欄

																				20
																				40
																				60
																				80
																				100
																				120
																				140
																				160
																				180
																				200

数え方 段落頭・途中の改行で残る空きも数え、最後の文の後の空きは数えません。

確認 条件・根拠・段落を点検し、使用マス数を確かめたか。

問10 自分と友達で仕上げる 見直し

問い・根拠・構成・表現を点検

書き手と読み手のチェック

○ できた／△ 一部できた／× 要修正。読み手がないときは、時間を置いて自分で確認します。

自分 ☐ 読み手 ☐ **問いと条件に答えている**

話題・立場・指定語句・段落数・マス数を問題文と照らす。

自分 ☐ 読み手 ☐ **理由が主張を支えている**

「なぜそう言えるか」に本文が答えているか読む。

自分 ☐ 読み手 ☐ **事実と想定例を分けている**

資料にない数値や経験を事実にしていないか確かめる。

自分 ☐ 読み手 ☐ **別の立場に敬意がある**

決め付けを避け、心配に理由や対策で応じる。

自分 ☐ 読み手 ☐ **文どうし・段落どうしがつながる**

指示語、接続語、主語と述語、結論のねじれを点検する。

自分 ☐ 読み手 ☐ **表記と文体がそろっている**

漢字・送り仮名・句読点・常体か敬体かを見直す。

読み手の助言（よい点と、根拠が分かりにくい点）

書き手が直すこと（採用する助言と、その理由）

読み返して直したいところ

直した理由